



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

# しらこぼと

## 2009.7

No. 303

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



# 「今回、最高でした！ 三宅島!!」

とは、再開して3回目の三宅島探鳥会、その全ての企画立案に携わった支部長の話です。今回は、天気よし、目当ての亜種も参加者全員がしっかり観察、海も穏やかな3拍子。そこで参加者の中から、ライフリスト7種増、リベンジ成功、歌声の大洪水におぼれた方々に報告させていただきます。

## ● 9日、上陸から伊豆岬まで

浅見 徹(さいたま市)

前日に通過した台風1号のせいか、「三宅島に上陸できない場合もあることを承知で」という条件付出港であった。しかし、海はベタナギ。早朝5時、快晴・微風の錆ヶ浜港に25名全員が元気に上陸した。宿泊先の新鼻荘が手配してくれた車に荷物を積み込み、我々は双眼鏡とスコープだけの軽装で村営バスに乗車。ここからもう、鳥見が始まりテンションは上がりっ放し。「あっ、今のはカラスバトじゃない!?!」、「あのコゲラ、色が濃くて大きいんじゃない?」など、バスの中は傍目も気にせず、興奮の声で一杯に。「大路池」バス停で降りて直ぐの新鼻荘に着くと、中庭の餌台にオーストンヤマガラ！ 持参の朝食もそこそこに、身支度を整えて徒歩で大路池へ。まだ7時前。

大路池への車道を歩き始めて早々に、ミヤケコゲラ、シチトウメジロ、アカコッコ\*をゲット。池への小道に入って「ウウーウ」という太い声が、遠くに近くに聞こえたかと思ったら、先頭集団が騒がしい。照葉樹の間を走る電線に止まっているカラスバト\*を、スコープでじっくり観察。朝日に輝く首から肩の緑色金属光沢が美しいこと！ スダジイを中心とした照葉樹に囲まれた大路池周辺は、太古の日本を思わせる風景。イイジマムシク



三宅島(東京から南南西へ180 km)



イ、タネコマドリ、モスケミノサザイの鳴き声があちこちから聞こえてくる。池に下りる三叉路で、轉るイイジマムシクイ\*をじっくり観察。ここで野鳥の会本部の方々と出くわし、しばし歓談&情報交換。この週末はちょうど本部によるアカコッコの生息調査が行われていた。調査員は島外や島の人たちのボランティアで、朝4時から手分けして、声によるラインセンサスを実施していた(詳しくは本部ホームページに)。湖畔では、運良くタネコマドリが出てきてくれた。

本部レンジャーが常駐する「アカコッコ館」で三宅島の自然についての話をうかがった後、村営バスで伊豆岬灯台に向かった。時刻は、まだ10時半。感動の鳥見体験は、まだまだ続く(※はマイ・ライフリストに加わった種。この後も続々ゲットしたのでした!)

## ● 伊豆岬からふるさとの湯入浴まで

大塚 一男(坂戸市)

三宅島は昨年に続き2回目の参加です。昨年、海は大時化、島内は風雨強く、鳥見途中で宿に戻ったりとサンザンでした。今回は快晴・風弱く、天候は申し分ないもの



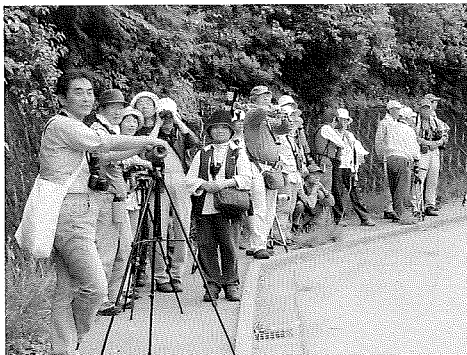
ウチヤマセンニューウ(長谷川訓寿)

となりました。

10時13分のバスで伊豆岬へ向かいました。伊豆岬入り口で下車、やけに幅広い車道をガラガラと降りていくと目の前に灯台と紺碧の海、大きな空、丈の低い草地が広がり、その先には稜線が不規則な雄山からゆるやかな噴煙らしき雲がひっきりなしに立ち上がっています。気分が広がる場所です。

早速、草地を一望できる小高い場所に上がりウチヤマセンニューウを見つけようと、目、耳を、こらしました。この鳥は飛び立つときに鳴く習性があるようで、しばしば鳴き声とともに草の先端に現れるのですが、こちらの気配を察知してすぐ草の中に入ってしまいます。熱心な参加者は、立ったまま昼食(写真・P2左下)です。なかなかじっくり見られません。そうこうしていると帰りの時間です。

バス停に戻る途中、草の上に現れたウチヤマセンニューウを見つけました。一同どよめきます。今度は草に対して私たちの居る

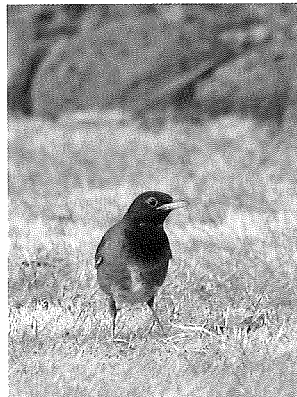


道が低くなっているので、察知されないようです。全員じっくりと観察できました(写真・左)。その直後、イイジマムシクイも間近で見られました。低木の中でしたが、全身の黄色味が印象的でした。お目当ての鳥たちとの遭遇に大満足で宿に戻りました。

しばらく休んでから、又バスで温泉(ふるさとの湯)に行き、しばしくつろぎました。入浴後、付近のメガネ岩を散策しました。大野原島(通称:三本岳)を望む夕日の美しい場所です。すると、我々のすぐ前に1羽の鳥が舞い降りてきました。いっせいに双眼鏡を向けました。ペンギンのように立ったまま(?)で逃げません。誰かがツバメチドリと叫びました。どうも大分疲れているようだとのことでしたが、そのおかげで、しばしの(珍?)鳥との対面を楽しみました。

## ● 10日、早朝から長太郎池まで

間正 理恵(狭山市)



新島狂庭のアカコッコ(宇野澤晃)

早朝4時半。鳥の姿はまだ見極めがつかない。声だけが私たちを圧倒する。戸隠や軽井沢で聞いた朝の歌が「湧き上がる大合唱」だったら、三

宅島のこの日の朝は「歌声の大洪水」におぼれる感覚。大路池まで歩く私たちに向かって、道の脇からタネコマドリが声を張り上げる。イイジマムシクイ、モスケミソサザイ、アカコッコ、オーストンヤマガラ、カラスバト・・・そして彼方からはアオバズクの声(宿にアオバズクが来るというので、夕べは窓を開け、耳を澄ましていたはずが、あつという間に夢の世界。姿は見損なってしまった)。空が白むとともに歌声は減っていく。餌探しが忙しくなるのだ



カラスノトもじっく(宇野澤晃)

ろうか?

思い思いに散策した私たちも7時に宿に戻り、朝食。その後再び全員で出発。今度は反対方向に歩く。高校脇の小道に入って見るが、イイジマムシクキ、タネコマドリ、ホオジロ、アマツバメなどのみ。うわさのキビタキ、オオルリは昨日の好天に既に旅立ってしまった様子。潮溜まりの長太郎池を目指し海岸まで下る。風が強く鳥は少ない。水面からときどき黄褐色のおにぎり型のものが覗く。誰かが声をあげる。「ウミガメの頭だ。甲羅も見える。三頭いる」。三宅島の近くでよく見られるのは海草を食べるアオウミガメ、産卵のために上陸してくるのは動物食のアカウミガメとのこと。ウミガメでひとしきり盛り上がった。

さて、このとき私は海面をバックに飛ぶ大型の鳥を見た。たった1羽、細長いつばさでゆったり羽ばたきながらまっすぐに進み、視野を横切って遠ざかっていく。ほとんどまっ黒に見える濃色の全身、腹と脇の下はまっ白という、くっきりとしたコントラスト。「なにか飛んでいるんですけど～」と言ってはみても、海原に目印はなし。結局誰にも教えることはできなかった。私が見たものが何だったのか、その疑問は、竹芝に帰るフェリーが島を出るとすぐに氷解した。なんと幸せな旅だったことか。



新鼻荘の庭で記念写真

観察種 48種 (2009.05/08~05/10)

No.	野鳥名	三宅島	三宅島	海上
		9日	10日	10日
1	オオミズナギドリ	○		○
2	アカアシミズナギドリ			○
3	ハイイロミズナギドリ			○
4	ハシボソミズナギドリ			○
5	カツオドリ			○
6	ウミウ	○	○	
7	アマサギ			○
8	チュウサギ	○	○	
9	コサギ	○	○	
10	クロサギ	○		
11	アオサギ		○	
12	トビ	○	○	
13	コジュケイ	○	○	
14	キジ	○		
15	オオバン	○		
16	イソシギ	○		
17	ツバメチドリ	○		
18	セグロカモメ	○		
19	ウミネコ	○	○	
20	アジサシ			○
21	カンムリウミスズメ			○
22	カラスバト	○	○	
23	キジバト	○	○	
24	ツツドリ	○		
25	アオバズク	○	○	
26	ヒメアマツバメ	○	○	
27	アマツバメ	○	○	
28	亜種ミヤケコグラー	○	○	
29	ツバメ	○	○	
30	ヒヨドリ	○	○	
31	モズ	○	○	
32	亜種モスケミソサザイ	○	○	
33	亜種タネコマドリ	○	○	
34	イソヒヨドリ	○	○	
35	アカハラ		○	
36	アカコッコ	○	○	
37	ウグイス	○	○	
38	ウチヤマセンニュー	○		
39	メボソムシクイ		○	
40	イイジマムシクイ	○	○	
41	亜種オーストンヤマガラ	○	○	
42	シジュウカラ	○	○	
43	亜種シチトウメジロ	○	○	
44	ホオジロ	○	○	
45	アオジ	○		
46	カワラヒワ	○	○	
47	スズメ	○	○	
48	ハシブトガラス	○	○	
日 毎 合 計		38	31	8
ウミガメ			☆	
イタチ		☆		

藤掛保司(川越市)作成



## 野鳥情報

**北本市北本自然観察公園** ◇3月28日、ベニマシコ♂1羽。赤くきれいだった（長嶋宏之）。

**蓮田市** ◇3月30日、ツミ1羽。「ピュウピュピュピュピュ」と鳴くので、見上げると、ケヤキの木から飛び立った。4月4日、シラカシの木でよく鳴いていた。ケヤキの木に2羽、交尾する（本多己秀・久文字）。◇4月11日、ツミ♂♀、とある木に営巣。並んで10分位いたが、♂は餌を獲りに出て、♀は巣に戻る。♀の声に混じって「ヒヨヒヨ…」の声も聞こえた。どうやら最初の卵がかえったらしい。小さな柔らかな声だ。ハシボソガラスが50m位に近づくと♂♀共にすばやく飛び出して、あっという間に追い払う。近くでオオルリの声を聞く。当地で確認するのは、2回目。4月12日、営巣中のツミの巣から親子ともに姿を消し、声もしなくなる。ハシボソガラスにヒナが食べられ、親が巣を放棄したものと思われる（本多己秀）。

**蓮田市黒浜** ◇4月2日、上沼の畔でアリスイ1羽、北側の林でアカゲラ♀1羽。東埼玉病院周辺でヤマガラ1羽、ヒガラ1羽、エナガ2羽、ビンズイ3羽、オオタカが2回飛翔。4月10日、東埼玉病院内でカケス3羽、ヤマガラ1羽、コジュケイがゴソゴソ、ハイタカが林内を抜けて行った。4月14日、同所で林内を飛び、電柱にとまる猛禽1羽、ハイタカにしては大きいと思ったらサシバだった。4月16日、同所でカケス、アカハラ、エナガ2羽、ヤマガラ2羽、アオゲラ♂1羽など。メジロが巣材集めをしていた。上沼で珍しくカンムリカイツブリ夏羽1羽、オオバン5羽など。蓮田高校上空をサシバが舞う（鈴木紀雄）。

**蓮田市西城沼公園** ◇4月3日、朽木に開けた穴からコゲラが顔を出した。ツバキの根元がルリビタキ♀のお気に入り。ハシボソガラスが電信柱とケヤキに巣をかけて座っている。1羽がキジバトを追い払った。4

月13日、シメ50羽+が1本の木に集まっていた。このごろコジュケイがよく鳴く。4月14日、ヒヨドリ50羽+が北に渡っていった。ツミが梢にいて、オオタカが屋敷林に消えた（長嶋宏之）。

**蓮田市蓮田根ヶ谷戸公園** ◇4月4日、オナガ10羽+、メジロとヒヨドリがサクラの蜜を吸っていた。ツミ1羽飛来（本多己秀）。

**蓮田市高虫** ◇4月4日、タヒバリ50羽+の群れが舞う。電線にキジバトかと思ったらコチョウゲンボウの若鳥だった。アカハラが目の前を横切り、砂利をしいた空き地にコチドリ3羽、内1羽が座っている。営巣か、セグロセキレイが稍でさえずっていた。その他キセキレイ、シメ、ツグミ、ツバメ、コガモなど。4月6日、ホオジロ、アオジ、カシラダカが飛び交う。ホオアカ1羽、アシにとまった。タカの声が鋭く響く。その他オオジュリン、バン、セグロセキレイ、カワラヒワ、タヒバリ、ヒバリ、ダイサギなど（長嶋宏之）。

**さいたま市大宮区** ◇4月3日、天気が良いので、徒歩で出勤。途中、ツミの声！待つこと数分、♂が頭上をかすめて目の前の枝に止まる。朝日に輝く深紅の目が美しい！しばらく、うっとり見つめてしまった。4月4日、カメラを持って、昨日の場所へ。いた！♀が盛んに鳴き、♂は地上に降りて巣材集め。♀はずっと高みの見物。♂は巣材運びの合間に♀のそばに行き、ちょこっとペアリング。繁殖成功を祈って、早々に立ち去った（浅見徹）。

**さいたま市岩槻区野孫** ◇4月8日、ケリ1羽。4月13日、ケリ2羽（鈴木紀雄）。

**さいたま市岩槻区尾ヶ崎新田** ◇4月8日、アシの刈られた遊水池でチュウサギ1羽、今季初認（鈴木紀雄）。

**さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇4月12日、シメ多し、水路で水浴び。シロハラ1羽。アカハラのさえずりを聞く。釣り堀付近でアオジのさえずり。花の咲いたクヌギでマヒワ約30羽の群れ。クヌギからクヌギへ移動。4月19日、センダイムシクイのさえずりを聞く。ツマキチョウがあちこちで飛ん

でいた(藤原寛治)。◇4月14日、花の咲いたクスギの木に「ギワン」と言い合いながらマヒワ約10羽。4月16日、ヒヨドリ約40羽の飛翔。アトリ3羽、アカハラ、シロハラ。シメが多い。カワセミ、コジュケイの声がよく響く。4月17日、アトリ約30羽が小声で「ギョッ、ギョッ」と鳴きながら飛び回る。ノスリが南西へ。コムクドリ5羽、今季初認(鈴木紀雄)。

**さいたま市桜区秋ヶ瀬公園** ◇4月16日、子どもの森でアカハラ、アオジさえずる。ツグミのぐぜりを聞く。シロハラ1羽。オオルリ♂1羽。ゴルフ場の脇の道でイタチ♂2頭がストリートファイト。取っ組み合い、追いかけ合いながら、だんだんこちらに近づいてきて、私たちの脇を小走りに走り抜けていった(藤原寛治・真理)。



イタチ(藤原寛治)

**深谷市本田** ◇4月4日、荒川白鳥飛来地左岸でツメナガセキレイ(亜種キタツメナガセキレイ、眉斑なし)1羽。4名で確認。同所では2年前、目の後方に白い眉斑がある個体が観察されている(鈴木敬)。

**羽生市羽生水郷公園** ◇4月6日、湿地の雑木にシメ10羽+の群れ。アシ原では太ったオオジュリンが目につく。いつもの杭にカワセミ1羽。新しくオープンしたエリアにヨシガモ♂4羽♀3羽が、多数のカルガモ、コガモに混じる。整地した花壇でヒバリが冠羽を立てて採餌。新駐車場でコチドリ。遠くからウグイスの声、対岸の林床でキジ♂1羽が♀2羽と採餌。散歩の人に教えるとスコープを覗いて驚いていた。その他アオサギ、バン、ツグミ、ホオジロ、アオジ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、シジウカラ、カワラヒワ、トビなど(長嶋宏之)。

**上尾市瓦葺** ◇4月14日、県道脇の遊水池で

コチドリ1羽、タシギ4羽、クサシギ1羽、ダイサギ4羽、チュウサギ1羽、コサギ2羽、アオサギ1羽、バン、カルガモ、コガモ、カワセミなど。ウズラの声、もしかしたら2ヶ所から? 4月16日、この日もウズラの声を確認(鈴木紀雄)。

**ふじみ野市** ◇4月16日、田んぼでムナグロ108羽(小松裕子、藤掛保司)。◇4月18日、田んぼでムナグロ158羽(藤掛保司・宮子)。

**志木市秋ヶ瀬取水堰西側** ◇4月17日、田んぼで南より北へムナグロ約60~70羽の群れが飛び、1~2分上空を旋回し、中央の田んぼに着水。1年ぶりの再会(志村佐治)。

**川越市水上公園の入間川** ◇4月18日、オオルリ♂1羽、クロツグミ♂1羽、アカハラ2羽、ムシクイ類1羽(佐久間博文)。

**川口市西新宿** ◇4月18日、センダイムシクイ(須崎聡)。

**吉見町八丁湖公園** ◇4月18日、センダイムシクイ複数羽。そろそろ来てるかな、と出かけてみるとあちこちから声が聞こえる。声を頼りに姿も確認。他にマヒワ、アトリ♂♀、シメ、ビンズイ。昼ごろ、ちょうど時報のようにフクロウが大きな声で2声鳴く。しかし姿は見えず。最後にオオルリ♂1羽を見つけてもうゴキゲン!(榎本秀和)。

**行田市下中条** ◇4月18日、利根大堰(武蔵大橋)上流でハイイロヒレアシシギ3羽。右岸近くを泳ぐのを観察していると、モーターボートの影響を受けて、川の中ほどへ移動した。嘴の基部は黄色。夏羽へ移行中の羽衣は、2羽の首から胸、下尾筒の赤褐色が目立つ。もう1羽は比較的淡色で白っぽい。水面で忙しく採餌していた。翌19日朝、写真撮影された(鈴木敬)。

#### ごめんなさいコーナー

6月号「野鳥情報」7ページ、川越市寺尾調節池のヒレンジャク情報の日付が抜けていました。3月19日でした。

#### 表紙の写真

コジュリン(スズメ目ホオジロ科ホオジロ属) 茨城県稲敷市浮島で撮影しました。

蟹瀬武男(さいたま市)



## 行事案内



バン

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章の担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費：就学前の子無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。 持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。悪天候の場合は中止、小雨決行です。

できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

### 群馬県板倉町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：7月5日（日）

集合：午前8時15分、東武日光線板倉東洋大前駅。または午前8時35分、板倉町町民グラウンド近くの思い出橋駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:35→栗橋7:56→板倉東洋大前8:08着。JR宇都宮線大宮7:07→栗橋7:41着で東武日光線乗り換え。

解散：午前11時30分ごろ、谷中湖北ブロック展望塔付近の藤棚。

担当：内田、橋口、玉井、田邊、中里、四分一、植平、小林(正)、進士、山田(東)

見どころ：アシ原浄化ゾーンを探鳥します。オオヨシキリ、コヨシキリ、セッカ、ヨシゴイ、ササゴイ、カッコウ、コアジサシの7種を中心に、じっくりと観察しましょう。森林浴でなく、アシ原浴です。汗を流し野鳥に負けずに新陳代謝。飲み物、帽子、タオルをお忘れなく。ついでに雨具もご用意ください。

### 熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：7月12日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9:09発、または寄居8:49発に乗車。

担当：中里、森本、大澤、倉崎、高橋(ふ)、後藤、藤田(裕)、栗原、飛田、新井(巖)、千島、鵜飼、岡田

見どころ：梅雨明けが待たれるこの時季。子育てを終えた鳥たちは緑陰にひっそりと身を休めています。今年巣立った若鳥たちも探してみよう。日が照ると暑い大麻生ですが、暑さに負けずにご参加ください。何か良いことが待っているはず。

### 滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：7月12日（日）

集合：午前9時45分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅、交番前乗り場から森林公園南口行き9:25発バスで終点下車。

費用：入園料400円(子供80円)

担当：佐久間、内藤、岡安、藤掛、大坂、青山、中村(豊)、山田(義)、高橋(優)、林、藤澤、宇野澤

見どころ：そろそろ梅雨が明ける頃。この時季は鳥が少ないのですが、去年はキビタキ、イカルが出ました。今年も何が出るか楽しみです。国蝶のオオムラサキ、夏の草花も見ながら、木陰を歩きましょう。

### さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：7月19日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9

時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、倉林、渡辺、若林、小管、赤堀、新部、青木、増田、宇野澤、須崎、

船木

見どころ：夏休みが始まる頃。子どもたちのにぎやかな声が聞こえてくる。負けずに芝川からオオヨシキリの鳴く声。青空を舞いながらセッカも元気に歌っています。私たちも集まって、いろいろな話をしたり、緑の風を浴びたり、夏を楽しみましょう。

## 狭山市・入間川定例探鳥会

期日：7月26日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:44発、所沢8:39発に乗車。

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村（祐）、山本（真）、久保田、石光、山田（義）、山口、星、水谷

見どころ：鳥の少ない季節ですが、草花や昆虫も見れば、きっと楽しい一日になります。暑さに負けない人、参加してください。

財団本部普及室から、フィールドマナー改定版が発表されました。

### フィールドマナー

#### （や）野外活動、無理なく楽しく

自然は、人のためだけにあるものではありません。思わぬ危険が潜んでいるかもしれないのです。知識とゆとりを持って、安全に行動するようにしましょう。

#### （さ）採集は控えて、自然はそのままに

自然は野鳥のすみかであり、多くの生物は彼らの食べ物でもあります。あるがままを見ることで、いままで気づかなかった世界が広がります。むやみに捕ることは慎みましょう。

（みんなで楽しむ探鳥会では、採集禁止が普通）。

#### （し）静かに、そーっと

野鳥など野生動物は人を恐れるものが多く、大きな音や動作を警戒します。静かにしてい

れば彼らを脅かさずにすみませし、小さな鳴き声や羽音など自然の音を楽しむこともできます。

#### （い）一本道、道からはずれないで

危険を避けるため、自然を傷つけないため、田畑の所有者など、そこにくらす人に迷惑をかけないためにも、道をはずれないようにしましょう。

#### （き）気をつけよう、写真、給餌、人への迷惑

撮影が、野生生物や周囲の自然に悪影響を及ぼす場合もあるので、対象の生物や周囲の環境をよく理解した上で、影響がないようつとめましょう。餌を与える行為も、カラスやハトのように人の生活と軋轢が生じている生物、生態系に影響を与えている移入種、水質悪化が指摘されている場所などでは、控える必要があります。また、写真撮影や給餌、観察が地元の人や周囲の人に誤解やストレスを与える場合もあるので、十分な配慮をしましょう。

#### （も）持って帰ろう、思い出とゴミ

ゴミは家まで持ち帰って処理しましょう。ビニールやプラスチックが鳥たちを死にいたらしめることがあります。またお弁当の食べ残し等が雑食性の生物を増やすことで、自然のバランスに悪影響を与えます。責任を持ってゴミを始末することは、誰でもできる自然保護活動です。

#### （ち）近づかないで、野鳥の巣

子育ての季節、親鳥は特に神経質になるものが多く、危険を感じたり、巣のまわりの様子が変わると、巣を捨ててしまうことがあります。特に、巣の近くでの撮影はヒナを死にいたらしめることもあるので、野鳥の習性を熟知していない場合は避けましょう。また、巣立ったばかりのヒナは迷子のように見えますが、親鳥が潜んでいることが多いので、間違えて拾ってこないようにしましょう。

（以下、野鳥撮影マナー、野鳥観察マナーについての詳しい呼びかけが続きます。次号以降に掲載します。）





## 行事報告

12月23日(火・休) 年末講演会

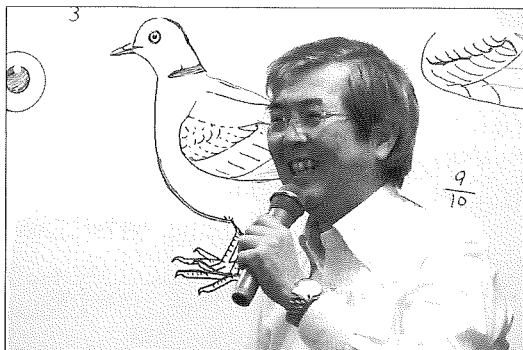
参加：76名 場所：さいたま市民会館うらわ

第1部 ビデオ：『振り返るこの1年』海老原美夫  
スライド：浅見健一、内田孝男(以上、会員)

第2部：講演『フィールドガイド日本の野鳥』  
谷口高司氏(野鳥イラストレータ)

谷口氏が『フィールドガイド日本の野鳥』増補改訂版に携わられた時のお話を中心に、フィールドノートに鳥を楽しく描けるよう、著書『“タマゴ式”鳥絵塾』を元にご指導いただき、支部の鳥シラコバトを皆で描いた。講演後、氏を囲みワシントンホテル中華レストランで懇親会を開催し、年末のひとときを野鳥談義に花を咲かせた。

(橋口長和)



12月28日(日) 幸手市 宇和田公園

参加：45名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ノスリ ハヤブサ チョウゲンボウ イカルチドリ イソシギ シラコバト キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ イソヒヨドリ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(37種)(番外：ドバト) 中川の河川敷が工事のため江戸川の土手へとコースを進めることにした。

スタートするとすぐにジョウビタキ、カワセミが出迎えてくれた。水路の土手の上に出るとシラコバトが数羽、地面で食事中。じっくり見ることができて皆を喜ばせてくれた。途中、橋のたもとで列が乱れ、後ろの人たちが小走りにバックし始めた。そして何か叫んでいる。「イソヒヨ、イソヒヨ」。まさかと思いながらスコープをのぞく。いる雄のイソヒヨドリ。本当に珍しい。しばらく皆の興奮が続いた。江戸川の土手に出ると遠く筑波山を望む。のんびりとした気分になる。暮れのひとつときの楽しい探鳥会だった。(中里裕一)

1月4日(日) さいたま市 さぎ山記念公園

参加：44名 天気：快晴

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ バン オオバン キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ シロハラ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス(34種)(番外：ドバト) 予報はずれの強風に鳥は少なめだが、昨秋多かったアトリが少数残っていて、この探鳥会での初記録。鳥合せ後の野外新年会の会場、北風が強くてここだけはいつも陽だまりのほっかほか。オニのパンツがどうかわけの分らない歌がいろいろ飛び交って、みんなアカショウビン。(海老原美夫)

1月4日(日) 千葉県 ふなばし三番瀬海浜公園

参加：39名 天気：快晴

ハジロカイツブリ カワウ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ スズガモ ホオジロガモ ウミアイサ ハヤブサ オオバン ミヤコドリ ハジロコチドリ シロチドリ ダイゼン ハマシギ ミユビシギ ユリカモメ セグロカモメ ズグロカモメ ハクセキレイ タヒバリ ウグイス シジュウカラ メジロ スズメ(26種) 富士山が見える干潟にハマシギ、ミユビシギがかたまつて休息していて、声もよく聞けた。風が強かったので岸近くに避難してきたのだろう。時々一斉に飛び立つと銀の砂を撒いたよう。海は波立ちスズガモは見にくかったが、終了間際にハジロコチドリをゆっくり観察できた。(杉本秀樹)

1月7日(水) 滑川町 武蔵丘陵森林公園

参加: 55名 天気: 晴

カイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ  
オカヨシガモ オナガガモ ホシハジロ ミコアイ  
イサ トビ コジュケイ キジバト コゲラ キ  
セキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ビン  
ズイ ヒヨドリ モズ ルリビタキ ジョウビタ  
キ シロハラ ツグミ ウグイス エナガ ヤマ  
ガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ  
カワラヒワ シメ スズメ カケス ハシボソガ  
ラス ハシブトガラス (36種) 落ち葉を踏みしめ  
ながら、ルリビタキ、エナガ、ヤマガラ、シメ、  
カケス等が見られた。山田大沼では、ミコアイサ  
♀1羽等、カモ7種が見られた。下見では、1本  
の桜の木に、2箇所穴を利用してシジュウカラ  
が出入りしていたが、本番は留守だった。鳥合わ  
せ後には、ハイタカが見られた。(藤掛保司)

1月10日(土) 久喜市 久喜菖蒲公園

参加: 36名 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツ  
ブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カ  
ルガモ コガモ トモエガモ ヨシガモ ヒドリ  
ガモ アメリカヒドリ オナガガモ ホシハジロ  
キンクロハジロ オオタカ チョウゲンボウ バ  
ン オオバン セグロカモメ キジバト カワセ  
ミ コゲラ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ツ  
グミ シジュウカラ メジロ アオジ カワラヒ  
ワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソ  
ガラス ハシブトガラス (38種)。風が徐々に強く  
なり、開始直後の沼東南端ではスコープが倒れる  
ほどになった。その中で浮島の方にトモエガモを  
見つけ、近づこうと沼の岸を回る間にアメリカヒ  
ドリを見つけて全員で楽しんだ。居たはずのトモ  
エガモが隠れてしまったが、代わりに風をよけて  
水面近くの枝にじっと止まっているオオタカを堪  
能した。強い季節風の条件下としては38種とまず  
まず楽しめた探鳥会であった。(玉井正晴)

1月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 43名 天気: 晴

カワウ マガモ カルガモ トビ オオタカ ハ  
イタカ ノスリ チョウゲンボウ キジバト コ  
ゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ  
モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイ

ス エナガ ヤマガラ シジュウカラ メジロ  
ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ イ  
カル シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス  
ハシブトガラス (32種) (番外: ドバト) 2009年大  
麻生初探鳥会は天候にも恵まれ、出発すると土手  
上でシメやツグミ、ホオジロ等が出現。野鳥の森  
に向かう途中で樹木に鈴なりのシメの歓待を受け  
る。上空にはトビ、オオタカ、ハイタカ、チョウ  
ゲンボウも姿を見せてくれた。(後藤康夫)

1月11日(日) 戸田市 彩湖

参加: 52名 天気: 快晴

カイツブリ ハジロカイツブリ アカエリカイツ  
ブリ カンムリカイツブリ カワウ コサギ マ  
ガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ ホシハ  
ジロ キンクロハジロ オオタカ ハヤブサ オ  
オバン ユリカモメ キジバト コゲラ ヒバリ  
ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ  
アカハラ シロハラ ツグミ シジュウカラ メ  
ジロ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムク  
ドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (35種)  
(番外: ドバト) 池を回って湖畔に出る。キンク  
ロハジロ、オカヨシガモを見てから、釣堀の林へ。  
小休止の後、アカハラ、シロハラ、コゲラと矢継  
ぎ早に出る。また湖畔に出ると、アカエリカイツ  
ブリのお出まし。当所4例目。全員が見られて幸  
い。しかし、目玉のヨシガモはいなかった。

(倉林宗太郎)

1月12日(月、休) 春日部市 内牧公園

参加: 68名 天気: 快晴

オオタカ キジバト コゲラ ヒバリ ハクセキ  
レイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モ  
ズ ルリビタキ ジョウビタキ シロハラ ツグ  
ミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ  
アオジ アトリ カワラヒワ シメ スズメ ム  
クドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (25  
種) 穏やかな日とで参加者多数に恵まれた。ツグ  
ミ、シメが目立ち、メジロもツバキから次々と飛  
び出し、その数約30羽。ルリビタキは久しぶりの  
出現。屋敷林では全員アトリを観察でき、まずま  
ずの探鳥会となった。(石川敏男)

1月17日(土) 松伏町 まつぶし緑の丘公園

参加: 69名 天気: 晴

カイツブリ カワウ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ハシビロガモ ミコアイサ オオタカ チョウゲンボウ オオバン イカルチドリ イソシギ シラコバト キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ツグミ ウグイス メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン アトリ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (36種) (番外：ドバト) 公園事務所後援の探鳥会となった。工事中の土手には入れず、公園内から池のカモ類を観測した。例年よりカモ類の種類は少なかったが、ベニマシコやカシラダカなど冬の草原の小鳥が楽しめた。古利根川に出て、かろうじてシラコバトをゲット。オオタカの記録が増えるに反比例してシラコバトの数が激減している。(橋口長和)

1月18日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加：58名 天気：曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ ヒドリガモ キンクロハジロ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ ミサゴ トビ ノスリ チュウヒ オオバン セグロカモメ キジバト カワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ オオジュリン ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (43種) 曇り空、歩き始めて下宮橋上手でミサゴ。谷中湖は干し上げが進み「遠いなー」が第一声。それでもカモ類やミコアイサ、ホオジロガモの♀、ヨシガモ100羽以上の群れを確認。中ノ島で浮島に止まるノスリ、トビ。東谷中橋をめざし歩き始めると左右の藪から、ウグイス、ベニマシコ、オオジュリン、シジュウカラが姿を見せた。が、空からはみぞれ混じりの雨が…。天候状況から、東橋でUターンし方向転換。戻ってカワアイサ♀やジョウビタキ♂をジックリ見る。天候が持ち直して北橋まで往復。中ノ島の東屋で鳥合せ。(内田孝男)

1月18日(日) さいたま市 三室地区

参加：53名 天気：晴

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサ

ギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ チョウゲンボウ バン オオバン イカルチドリ イソシギ タシギ セグロカモメ キジバト カワセミ クイナ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン アトリ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (46種) 1年に1回、第二産業道路を越えて、芝川を上流へ行くコースである。アシ原と浅瀬が程良くあり、ヨシガモなど多くの鳥が見られた。代用水沿いの道では、先月初出現したアトリが木に鈴なりで壮観。距離はあったが、全員楽しい鳥見をしたので短く感じたようだ。今年も元気に仲良くと誓った探鳥会になった。(楠見邦博)

1月24日(土) 蓮田市 黒浜沼

参加：61名 天気：曇時々小雪

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ オオタカ ノスリ クイナ バン オオバン キジバト カワセミ アリスイ アオゲラ コゲラ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (40種) 雲が広がり、小雪が舞う。そして前日までの雨による悪路で変則コース。先が心配。始まると直ぐにジョウビタキ♀がみんなを歓迎。沼ではマガモ・カルガモ・コガモ・バン・オオバン、そしてカイツブリが。でも、種と数が最近少なく、心配のひとつ。アシ原では「アリスイ！」の声。いつものように、直ぐ引っ込んでしまった。再び「アリスイ！」の声、今度は全員が、それもジックリ観察できた。よかった！ コースを進むとノスリ・オオタカも舞ってくれた。ホテルの里ではシャイなクイナと人気のカワセミが出てくれ、これまた全員が観察。また、よかった！ 天候も持ち、最近見られなかったアオゲラを含め多くの鳥たちが顔を出してくれ、結果よしの探鳥会となった。事故なく終わることができ、参加者の方々に感謝。(田中幸男)



● **支部の名称変更問題に進展**

公益法人制度改革に伴う支部の名称変更について、現在の支部名称から「支部」の 2 文字を削除して「日本野鳥の会〇〇」とする案に対し、内閣府から承認できないとの見解が示され、一時手続きが止まっていました。

ところが、5 月 22 日付け財団本部から各支部あて文書によれば、内閣府公益認定等委員会事務局および環境省と調整を続けた結果、「日本野鳥の会〇〇」と改称する形式で問題はないという見解を得たとのこと。

これで支部としても手続きを進めることができるようになりました。次年度の埼玉県支部総会では、名称変更とそれに伴う規約等の改定が議題になります。

● **バードウィーク全国一斉探鳥会に参加**

バードウィーク期間中の 5 月 10 日に実施される支部の探鳥会を、バードウィーク全国一斉探鳥会として集計し、広報に役立てようと財団本部から呼びかけがありました。それに応えて当支部は、5 月 10 日の大麻生定例探鳥会を登録しました。結果として、5 月 19 日集計で、全国 32 支部と財団本部、計 33 ヶ所の探鳥会に、合計 803 人が参加、136 種が観察されたとの報告がありました。

● **埼玉県支部用入会申し込み振替用紙を作成**

会員数の増加を図るため、支部役員会として様々な検討をしていますが、そのひとつとして、埼玉県支部用入会申し込み振替用紙を作成しました。

財団本部作成の入会案内パンフレットは全国の支部を紹介しているために複雑で分りにくいとの反省から、「埼玉県支部に、総合会員または支部型会員として、郵便振替で、1 人が」入会する時、つまり最も基本的で単純な形で入会する時に役立てていただく

というものです。本部の入会案内パンフレットに挟んで配布を始めます。ご活用ください。

● **新型インフルエンザで**

万一国または県などから行事自粛要請が出た場合、支部探鳥会などはすべて中止します。急ぎの場合は、集合場所で担当リーダーが中止をお伝えします。探鳥会のかわりに探鳥コースをご案内するようなこともありません。ご理解をお願いします。

● **会員数は**

6 月 1 日現在 2,146 人です。

**活動と予定**

5 月 9 日 (土) 6 月号校正 (海老原美夫・大坂幸男・佐久間博文・山田義郎)。

5 月 17 日 (日) 役員会 (司会：浅見徹、各部の報告・入会振替用紙の作成・支部総会準備・新型インフルエンザ対応・その他)。

5 月 20 日 (水) 「支部報だけの会員」に向けて 6 月号を発送 (倉林宗太郎)。

5 月 30 日 (土) 都内で開催された平成 21 年度定例評議員会に、評議員として橋口長和、傍聴人として藤掛保司が出席。

● **事務局の予定**

7 月 4 日 (土) 編集部・普及部・研究部会。  
7 月 11 日 (土) 8 月号校正 (午後 4 時から)。  
7 月 18 日 (土) 袋づめの会 (午後 3 時から)。  
7 月 19 日 (日) 役員会 (午後 4 時から)。

**編集後記**

今年も、『仕事の前に、ちょこっとBW』(2008 年 3 月号参照) で、10 年以上続いているチョウゲンボウの繁殖が確認できた。巣立ちちは 5 月 30 日、雛の数は 2 羽。例年より 3 週間ほど遅く、雛の数も少ない。しかし、親と飛び回っている姿はなかなか頼もしい。(山部)

しらこぼと 2009 年 7 月号 (第 303 号) 定価 200 円 (会員の購読料は会費に含まれます)  
 発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130  
 〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号  
 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/  
 編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com  
 住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田 3 丁目 9 番 23 号 丸和ビル  
 (財) 日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5436-2630 FAX 03-5436-2635  
 本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社